



▲新しい市立恵那病院の外観のイメージ図

市では、老朽化が進む市立恵那病院を再整備して平成28年度中に開院できるよう整備事業を進めています。このほど、地域の暮らしを支える「コミュニティ・ホスピタル」を目指した新病院の基本設計がまとまりましたので、お知らせします。詳しくは、市ウェブサイト (<http://www.city.ena.lg.jp/>) をご覧ください。

☐問い合わせ 医療施設整備課 ☎43-1265

施設の概要	
☐名称	市立恵那病院
☐建設地	大井町2725番地5 他
☐造成	約5㍍
☐構造	鉄筋コンクリート造、免震構造(※)
☐階数	地上4階
☐病床数	199床
☐診療科	20科

特集2 市立恵那病院再整備の基本設計

地域の暮らしを支える病院

親しみを感じる建物

市立恵那病院再整備の基本設計では、豊かな自然との調和や市民同士の交流を誘うような配置、市内の伝統的な町並みが連想できるような外観にして、日常生活に密着した医療が行える病院を目指しています。

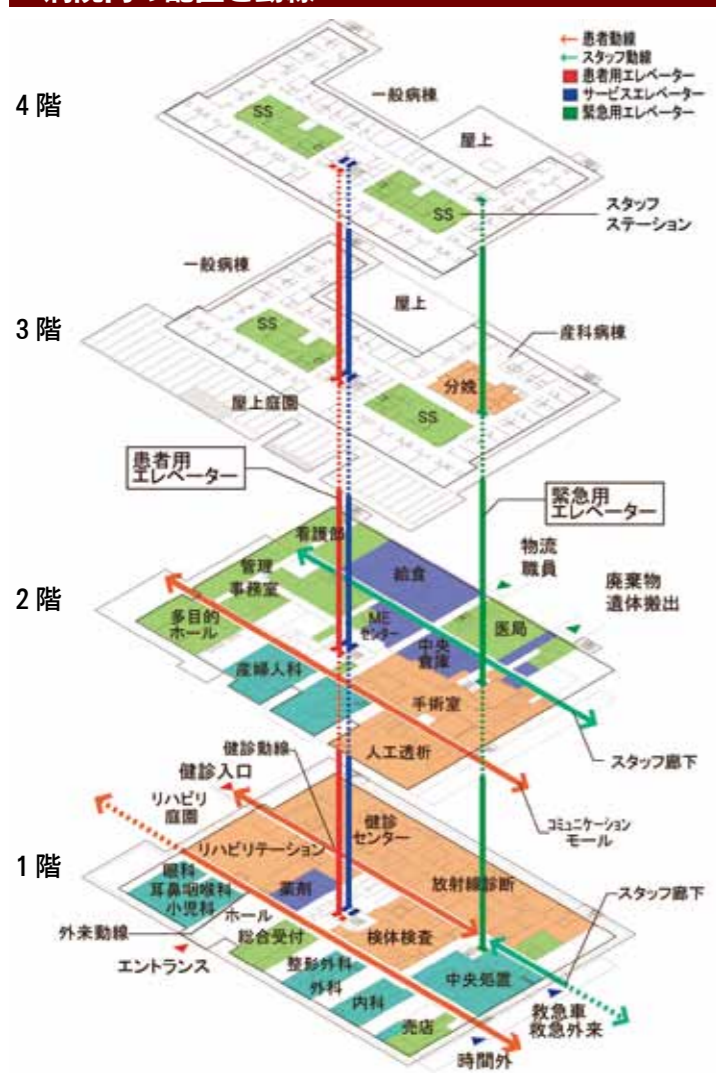
建物を南側の道路に大きく向けて、地域に開かれ人が集まり元気のある病院としました。正面出入口は明るい南側に、時間外と救急の出入口は東側に配置しました。

外来と売店などの共用部分を開連付けて、南側に配置。新しい病院と既存の建物を利用する福祉施設の間には、交流広場などを設置して、患者のリハビリ治療や、さまざまな市民活動の切っ掛けになるよう計画しました。

建物の正面は、でこぼこを付けることで、緑や光を建物の内部まで引き込んだり、中山道大井宿を連想できたりするように計画。古い町並みに呼応する地場産材や栗色を主体とした色彩で、皆さんに親しみを感じていただける病院となるように設計しました。

※免震構造＝建物上部と基礎の間にゴムなどの免震材やダンパーを設置することで、地震時に水平方向の揺れ（横揺れ）を吸収させて建物の揺れを低減する仕組み。新病院では、建物1階床と基礎の間に免震ピットを設けて免震材やダンパーを設置

病院内の配置と動線



緊急の縦動線を確保

新しい病院は4階建てで、1階と2階に診療科を配置しました。1階の正面入口の右側に内科と外科、整形外科を、左側には小児科と耳鼻咽喉科、眼科を、2階に産婦人科などを配置。3階と4階は、入院患者のための一般病棟とされています。

病院内の動線は、次の通り計画しました。一般患者の入口は南側正面に確保し、上の

階へは正面入口のエントランスホール階段や、中央の患者用エレベーターで移動します。健康診断などを行う健診センターには、専用の入口を交流広場側の建物西側に設けて、一般患者との動線を分離しました。

救急車で運ばれた救急患者は、建物東側の救急入口から救急部門を経由し、緊急用エレベーターで手術室や分娩室への搬送も可能です。時間外の患者は、建物東側の時間外

入口から入ります。見舞いに訪れる方は、時間外入口から入り中央の患者用エレベーターで、3階と4階の一般病棟へ行けるようになっています。

感染症患者は、時間外入口から中央処置区域の救急外来の感染用待合や診察室へ進みます。小児患者の感染対策としては、正面入口の風除室に小児科外来用の入口を設置し、専用の待合や診察室を確保しました。

敷地内の配置と動線



救急車用の道を新設

一般車両やバスは、使い慣れた南側の現在の進入路を利用します。病院正面の車寄せには、バス停やタクシーの待合場所を確保。また救急車両の専用の進入路を、新しく南側に設置します。

病院の東側と南側の駐車場などの敷地は、一般の方が使いやすいように1階床高と同じ高さになりました。北側には職員の駐車場を配置し、2階の床高に造成。北側の2階に

通用口を設けて、職員などの動線を一般の方と分離しています。駐車場は、患者用が335台と職員用が215台、車椅子用が10台で、合計560台分を計画しました。

既設建物と計画建物の間には、患者が屋外でリハビリをしたり、心身の疲れを癒やしたりする空間を確保しました。新築する建物の周りの広場や既存の駐車場の周りの部分増築や建て替えなどに対応する場所として活用できるように計画しています。